

アマダイ通信NO. 105

(Tile fish network letter)

2015年春うらら

知人・友人各位

今年は第二次大戦後 70 年、は幸いにして戦時下の生活を知らないが、物心ついた後も長いこと、貧しい生活が続いた。食べる物に事欠くのも辛い、もの言えば唇寒しというのも辛い。第二次大戦は、英米仏の先進帝国主義に対する日独伊の後発帝国主義による植民地再分割を求める帝国主義戦争であると同時に、中国、韓国などの植民地側からは、民族解放戦争であった。後発帝国主義国は戦力の不足を補うため、軍国主義・ファシズムという総力戦・総動員体制を敷き、国民に対しては北朝鮮の「先軍政治」の様な圧政を強いた。敗戦は又、軍国主義からの国民の解放でもあった。このことも忘れてはなるまい。

◎汚職撲滅・衣食足りて礼節を知る！？

北京の大学で教鞭を執る津田君（99 年三鷹寮入寮）から、「今日も徹夜で、本の執筆。中国の腐敗防止を目指して、清廉の褒れ高い日本の官僚制度がどうしてこう清廉なのか、歴史的側面に注視して執筆せよとの学長命令で突貫工事で書いています。主に制度について書けとのことですが、日本にこれといった制度はあまりない。それより、詰め腹を切る切腹の存在、武士はくわねど高楊枝の精神が大事だという結論に。日本の制度から学ぶという学長のもくろみはまんまと外れました。」とメール。残念ながら、中国の汚職のひどさは学長と同じように、制度に理由を求めるべきだと思います。多分、その中身は、学長の思惑とは違うと思いますが、と早速メールを返す。

一つは、衣食足りて、礼節を知るということです。日本も戦後の貧しかった時、普通に働いても食べるのがやっとだった時、盆暮れに学校の先生に贈り物をしたり、お巡りさんにお金を渡して交通違反を揉み消したり袖の下、付け届けから始まって、賄賂や汚職は珍しくありませんでした。経済が高度成長、国民の生活が豊かになり、中間層の分厚い、格差の少ない、世界でも希にみる「社会主義社会」が実現するにつれ、汚職は少なくなりました。多少のお金を手に入れても、万一見つかって、安定した「豊かな生活」と退職金や年金を失うのでは割に合わないと考えようになったからです。特に日本人が道徳的に優れているとかではないと思います。

次に、日本は中国と違って、権力が分立し、不十分とは言え、お互いに監視するシステムになっているからです。中国では末端まで共産党に権力が集中、これを監視し、権力の乱用を抑制する制度がありません。好き放題やっても身に危険が及ばないのであれば、誰でも権力乱用の誘惑にかられます。更に国家権力が分立、相互に監視・抑制するシステムだけではなく、一定の表現の自由を有し、国家権力の外で、国家権力全体を監視するメディアの存在があります。そして何よりも、知る権利を有し、表現の自由を持つ国民の存在があります。報道の自由は国民の知る権利、表現の自由のために存在します。

最後に強いて挙げれば、国家に対する国民の信頼、社会そのものに対する信頼の問題があります。日本の我々からみると中国の汚職の金額は桁外れです。数千億円という一生涯

かかっても使い切れないような金（政敵を追い落とす側の発表通りとして）溜め込んでどうする積もりなのでしょう？汚職する本人自身が今の国家、社会が長続きする筈がないと思っているのでしょうか？だからせつせと溜め込んで、それを海外に移し、子供を留学させたり、身内を海外に住まわせる。我が家の、東京湾岸の20階建て、400戸のマンションにも結構チャイニーズが住んでいます。香港やシンガポールの不動産の値上がりも凄いですね。虎も蠅も退治すると啖呵を切る大虎、習主席に、頑張って根本治療、制度改革をお願いしたいものです。汚職で得た大金を懐にした金持ちに東京の不動産を買い占められると、東京は庶民が住める所でなくなります。大虎さんもお嬢さんをハーバード大学に留学させています。大虎さんちの金庫の中はどうなっているのでしょうか？

◎死せる垂乳根、生ける●を走らす！

スキー友達がみつからない週末、久しぶり足休め。月島のプールへ。休憩時間に何故か、脳の味覚領域に刷り込まれた旬の味、氷頭ナマスと鱈子のキンピラが食べたくなる。真鱈の大きな卵を見ると、お袋の垂乳根を思い出す。万葉の昔から、垂乳根とはお袋のこと、母の枕詞。真鱈の卵巣の様に大きなオッパイに9人の子供がぶら下がり、1人の子が飲み終わると2センチ垂れるとして、8番目の●がぶら下がった時は14センチ、立派な垂乳根に成長、3年後に妹が生まれ、辛子を塗った乳首を口に含まされ、無理矢理垂乳根と辛い（ツライ）別れ。辛い（カライ）のが今も不得手なのはそのせいでしょうか？

お袋の垂乳根の反動か？男なら誰にでもあるオッパイコンプレックスなのか？ピンと張った、豊かな乳房への憧れもありますが、懐かしの垂乳根の枕詞を、最近ほとんど目にすることはありません。石川啄木の「たはむれに母を背負ひてそのあまり 軽きに泣きて 三歩あゆまず」の有名な歌にも登場しません。死語になったのでしょうか？若い娘は近時スリムになって、垂れるほどの乳が少なくなったのか？鍾となる乳飲み子の数が少なくなったからか？そう言えば「乳呑み児を抱えて苦勞する若い寡婦」なんて表現も目にしなくなりました。文学に疎くなったからでしょうか？

垂乳根コンプレックスの●は愛車赤いルノーのペダルを踏んで、鮭の頭の酢漬けの氷頭と真鱈の子を探し、まずは銀座三越へ。続いて隣の松屋へ。百貨店の看板降ろせ！とひとりごちて、東京駅に向かう。道中、何故か秋田名物ハタハタ鮓(秋田音頭の冒頭に「秋田名物八森ハタハタ・・・」)も食べたくなり、有楽町の交通会館の秋田物産館に寄り、故郷八森の鈴木商店製鱈鮓とついでに切りたんぼ、蓴菜にも手を伸ばす。全国の物産館が店を広げる交通会館は故郷の味を求める田舎者で一杯。花の銀座を、垂乳根で頭の中を満杯にして駆け抜けることに、些か気後れを覚え始めていた●、垂乳根で頭を一杯にした田舎者が溢れているのを見て勇気百倍、東京駅大丸へ。幸い氷頭は見つかりますが、スケソウ鱈の子では、鱈は鱈でも、枕詞を連想させる迫力はありません。

日本橋高島屋へと気は逸りますが、今更、垂乳根に出逢う確率の小さいことに気付いた目に、似たような物が飛び込んできます。切り刻まれ、冷凍された巨大垂乳根には、メバチマグロの子と書いてあります。群盲には垂乳根だと想像力を働かせられないかも知れませんが、カットされ、冷たくガチガチに固まっても、それは巨大垂乳根の一部であり、部分は全体を貫くので！？ゴボウと人参、糸こんにゃくと一緒に、甘辛く炒めれば、お袋の味になることを確信、取り敢えずゲット。最後のターゲット、高島屋へ向かいますが、

気は楽です。やはり高島屋にも真鱈の子はなく、昭和通り沿いに赤いルノーを走らせ、勝鬨橋の袂に来て、ここ築地の魚市場なら真鱈の子でも、氷頭でも、鱒でも何でも手に入ることに、漸く気付きます。でもめげません。晴海通りから八重洲通り、昭和通りと6段変速の愛車のペダルを踏み、いい運動になったと、🍀流ポジティブ思考。

◎雪も水も

春の息吹も感じられる2月下旬の週末、土曜日、奥利根のホームグレンデ宝台樹スキー場、蕎麦屋の幸新でいつもの地料理と地酒を味わった後、シニア半日券でリフト14本分スキーを楽しむ。日曜日はシニア無料の月島区営プールで1km泳いだ後、2千8百g弱と華奢で可愛い四人目の孫、和(なごみ)君と初対面。成長するのをこの目で確かめ、多少その手助けが出来るのは嬉しい。孫の成長につれ、こちらの余命は縮まるが、孫の成長が何故嬉しくなるのか？血の繋がりを通じ、生命の繋がりをを感じるからか？最もNHKの朝の連続テレビドラマ「マッサン」のマッサンとエリーは、貰い子を実の親に劣らぬ強い愛情で育てる。親子の愛、家族愛は血のつながり以上に、育てるという営為の中で育まれる。

今シーズンからスキーを始めた5才の孫娘、婿殿と、越後湯沢の岩原スキー場、遠目に美しい、なだらかなグレンデで何度かスキーを楽しむ。最初はスキーをくの字にはいたボーゲンで暴走、ブレーキ代わりに尻餅についてストップ。次に体を傾けた方にスキーは曲がるので、体を左に右に振って左右に曲がれるようになる。最後、思い切り曲がるか、内腿に力を入れ、ボーゲンの先をカ一杯広げればスキーが止まることを、時々後ろ向きになりながら一緒に滑り、手振り、身振り教える。滑って、曲がって、止まれるようになれば、スキーを一緒に楽しめる。身長50センチにも満たない和君とも、3、4年もすればスキーを楽しめる。余命半年、「ほとんど治癒する見込みなし」(岩波新書「胃がんと大腸がん」)の大腸がんステージⅢbの手術から13年、もう少し元気でいたいものだ。

孫とスキーを楽しむためには稼ぎも必要。金沢駅前のイオンのモール、フォーラスの建物のオーナー、JR西日本不動産と電源開発をつなぎ、電源開発が5千万円ほど初期投資、深井戸を掘って、膜濾過などの浄化設備を設置、初期投資の倍以上かかるメンテナンスコストも電源開発が負担、10年契約で浄水を安く供給、JR西日本不動産は年間1千万円ほど水道代を節約した上で水源を二重化、災害時に公営水道が止まっても、フォーラスも営業を継続出来、客や近隣の住民もトイレや飲用水を使える、二重、三重のメリット。仲介の労を取った🍀も多少の報酬が貰える。発電と電力卸売りが本業の電源開発(株)が民営化後に始めた新規事業の井水利用専用水道システム、お客さんのリスクと投資ゼロで水源を二重化、事業継続性を高めた上で水道代を大幅削減する優れもの。日本の水道料金が水不足時代そのまま、東京では大口が立米405円、小口が200円と、大口のユーザーに高く、一般家庭に安くなっているのが、300円前後で供給出来れば、お互いメリットがある。🍀が説明すると、話がうま過ぎると半信半疑のお客さんも納得。手伝いを始めて10年ほど、電源開発が全国で45か所、年間450万立米ほどの水を供給する中で、京都駅ビル、東大病院、医科学研究所、東工大鈴かけ台キャンパス、ホテル椿山荘、京王プラザホテルなど14、5か所を仲介、新大阪駅ビルの様に仕掛中のものも10件以上ある。年間5万立米前後の水を使用する事業所を持ち、水源を二重化して事業継続性を高めたい、水道料金を削減したいという事業者又は、事業者をお知りの方は是非🍀にご相談願えればと思います。

◎ネットワークに感謝、多重にお役立ち

海上や地上から水蒸気として蒸発、上空で冷やされて雲になり、脊嶺山脈に当たって雪に姿を変えるH₂O、冬は雪上を華麗に（積り）滑り、夏は海中に素潜り、アワビやサザエを手づかみ、アイナメをヤスで突いて育った🐞、老境に身を置いても遊びだけでなく、水絡みの商売を生業とする。水が水蒸気に、更に雲から雪に姿を変え、融けて流れて、有機物を運んで豊穡の海に還るように、最近は建築にまつわるメーカーの営業のお手伝いから、最上流の不動産取引、中流の色々なビジネス、巨大土木プロジェクトに絡むことも。

大学でようやく階級意識に目覚め、貧困と格差、疎外と戦争のない社会を創ろう！全世界を獲得しよう！と果敢に権力の壁に挑む。その度に跳ね返され、駒場の教養課程に7年いる間に7回警察に逮捕され、最後は未決で70年を丸々中野刑務所で過ごす。足かけ3年の務所暮らしの後も、自らが一度は否定した資本主義のシステム、市民社会にどっぷり浸かる気になれず、受験産業で糊口を凌ぐ。四十代近く、すんなり市民社会に入り込んだ仲間達は、役所でも民間でも実力課長や部長に出世、堂々たる押し出しに気遅れを覚える。社会性を獲得しよう！社会の片隅のフリーターから一念発起、40才でサラリーマンを始める。高層ビルのコンクリート製外壁パネルを製造施工する高橋カーテンウォールに勤めていた90年代、バブルが弾け、民間の仕事はしばらくない、役所やJR、NTT等堅い所の仕事を取らなくてはいけない、官僚養成学校の東大、しかも法学部に長くいた🐞なら、そんな所に知合いが沢山いるだろう、営業に回れと社長。渋々始めた営業だが、確かに要所、要所に昔の仲間や寮の先輩やがいて、助けてくれる。営業の傍ら恩返しに、元々嫌いではない寮の同窓会活動やボランティア活動に精を出す。更にネットワークが拡がり、営業成績も上がる好循環。終には50才で「一人商社」として独立することに。

専ら建築関係のメーカーの営業コンサルタントとして、施主の紹介で設計事務所やゼネコン、設備サブコンにメーカーの製品を売り込むが、そんなに施主にネットワークがあるなら、自分の所の営業も手伝えと、最近は設計事務所やゼネコン、設備工事業者から応援の依頼も。ゼネコンにサブコンを紹介したり、応援する意匠設計事務所に、頼まれた設備設計事務所を使って貰ったり、顧問先のメーカーの製品を設計折込みして貰うなど、より上流へ。かつての中大全共闘ML派の森本君率いるデベロッパ、モリモトのマンションの設備工事に知合いの設備工事業者(サブコン)を使って頂く。更に最上流の不動産取引にも声がかかる。それぞれ営業先のホテル運営会社とデベロッパをつないで、赤坂でビジネスホテルのプロジェクトが2件、埼玉で土地の所有者とデベロッパをつなぐ物流倉庫の案件が2件進む。これまで、お願いするだけだった設計事務所や施工業者、ホテル運営会社、商業施設運営会社、デベロッパなど、上流の皆さんのお役に立って、情報の仲介分野が拡がり、よりスムーズに、システムティックに仕事が進むのは嬉しい。

みどりの窓口で、こまちにします？はやぶさにします？と聞かれ、勿論（秋田）こまちでと答えて、NHK仙台放送会館建て替えの建築営業で大林組の東北支店の営業部長に挨拶、仙台とんぼ返りした日の前日は、名古屋で中日本高速の技術担当取締役に会って頂き、東京外環道の大深度地下トンネル工事の立坑の作業ヤードを覆う防音ハウスに、大空間を実現出来る顧問先のトータル環境のカテドラル工法の骨組みを採用することを提案。大深度地下で巨大シールドマシンが掘り、24時間大量に地上に搬送される泥土、脱水し、ヒ素や重金属を処理し、搬出する必要。従来の防音ハウスでは20m四方の無柱空間しか出来ず、

それ以上の広さでは柱が必要で、使い勝手が悪い。柱と重機に挟まれ、作業員が命を落とすこともまれではない。現在、高井戸の清掃工場の解体と地下工事で使われている大無柱テント空間のカテドラル工法の骨組みを使えば、間口 80m、高さ 48m、奥行き∞の効率的で、安全な大作業空間が実現する。更に大規模な工事のリニア新幹線の先駆けとなるので、同じく顧問先のアムスエンジニアリングの汚染土壌の浄化、固化、無害化技術共々、土木の分野でも、お役に立てればと思う。名古屋名物山本屋の味噌煮込みうどんを久しぶりご馳走になり、大阪で JR 西日本 OB の大鉄工業副社長に会い、鉄道高架橋の耐震補強工事や建物の改修工事に使う、顧問先の SC ジャパンがフィンランドから輸入した、毎日ブレーキテストが出来るなど、安全で高効率な昇降式移動足場をアピール。在来線、新幹線だけでなく、鉄道も走る瀬戸大橋の橋脚耐震補強でも大量に使って貰いたい。JR 四国でも提案。鉄道の耐震補強では阪和興業の鋼板も使って頂いてますが、更に同社化成品部の最新技術、使い勝手のいい、多色の炭素繊維での補強も提案。昇降式移動足場は外環道やリニア新幹線の立坑にぶら下げて使うことも提案。建築のみならず土木の分野にも手伝いの範囲が広がり、同じ現場で複数の商品を提案、多重にお役に立てるのは嬉しい。

のモンゴル紀行Ⅲ (クラブツーリズム、週末気軽にモンゴル、2014.05.02 ~05)

⑤成長するモンゴル

三日目はホテルで朝食後ウランバートル市内観光。草原から若者を？呼び寄せ膨張するウランバートルのあちこちにクレーンが建ち並び、ビルやマンションが造られている。寒暖の差が激しい割にはガラスの外壁の建物が多い。冬の陽光が欲しいのか？夏の暑さは気にならないのか？冬の寒気、夏の暑熱をシャットアウトするには断熱性能の高い、石やコンクリートの外壁がいい。まして、電力の供給が需要に追いつかない国では尚更だと思うが、凍てつく冬には暖かい陽差しが何よりなのか？

街の中心を取巻くように川が流れ、河畔に高層マンションが続々建つ。海のないモンゴルのウォーターフロントとして川辺が好まれ、人気が高い。庶民には手が出ないが、国会議員で元大相撲の関取、旭鷲山のような金持ちが住むという。途上国の例に漏れず賄賂が横行し、貧富の格差が酷いと現地ガイドのトンガが嘆く。建設業は盛んだが施工するのは中国、それも漢族中心だったが、モンゴルの技術者も育って来て、モンゴル企業による施工も増えて来たという。日本のスルガコーポレーションという企業も頑張っているという。620 段の石段を登り市街を一望する、第二次大戦の戦勝を記念する丘に登る。川の畔には蒸気発生のために水を必要とする火力発電所が 2ヶ所あり、モクモクと煙を吐き出す。電力不足なのでもう 1ヶ所工事中だという。燃料は勿論、売るほどある石炭だ。

モンゴル最大のチベット仏教寺院ガンダン寺へ。社会主義時代に宗教は弾圧され、寺も破壊されたが、民主化後間もなく、寺も宗教も再建されたという。巨大な黄金仏もある境内には鳩が溢れ、足の踏場もないくらいだ。触って回すとそこに書いたお経を読んだことになるという、ラマ教特有の、何とも都合のいいマニ車(最も文盲にも功德の機会を与えようということか?)は沢山あり、参拝者は歩きながら、クルクル回している。チベットと違って、五体投地用の傾斜のついた台に身を投げて、熱心に祈る者はいない。お賽銭も余りない。最もチベット仏教の総本山ラサのポタラ宮ではお賽銭が多すぎて、毛沢東の肖像の入った紙幣を、坊さんが箒でかき集めていたのには違和感を感じたが。

お昼はモンゴル式しゃぶしゃぶ。木をふんだんに使った気のきいた店だ。モヤシ、白菜、椎茸など馴染みの野菜もたっぷり、輸入したのか？春雨まであり、鶏、羊、牛と種類も量も多く、食べきれない。何より柔らかい。勿論和牛の美味しさには敵わないが。タレも酢醤油とゴマだれ、最後に麺が出て食べきれなかった。今はアメリカのファンドに買われたが、日本でも結構お店のある、内蒙古発祥という蒙古しゃぶしゃぶの店、「小肥羊」に似ている。モンゴルにはない野菜や、昆布やセンマイのツマミも出て来て、韓国資本という話もあり、韓国経由で日本から輸入されたのかとも思ってしまう。

⑥チンギス・ハーンになる！？

昼食の後は映画チンギス・ハーンを主題にした歴史民俗博物館「蠟人形館」へ。ソ連の「座敷牢」から解放され、死せるチンギス・ハーンは祖国で大活躍。あらためて「中原の中国」や内蒙古ではどう評価されているのか？興味が湧く。最初は北方からの侵略者、蛮族、次いで皇帝、最後は中国が最大版図を誇ったユウラシア帝国、元の創始者をどう評価するのか。習近平主席が市場化で大義を失った「社会主義」の旗印の代わりに、中華民族の復興を唱え、大中国の統一を図ろうとする時、大中華民族には蒙古族や満州族も含まれ、満州、モンゴル、新疆、チベットまで含む大中国でモンゴル族が覇権を握ったのが元、満州族がヘゲモニーを取ったのが清で、所詮は大きなコップの中の争いというよりも、バケツの中の争いよ！ということになるのであろうか。映画チンギス・ハーンの衣装を着て写真を撮る。王女になるのは諦め、チンギス・ハーンになる。

次いで旧国営百貨店へ。一階がスーパー、6階が土産物屋とスターバックス、真ん中が大きな吹き抜けて、5階が家電。日立やパナソニック、東芝、ソニーなど、日本の家電も頑張っている。成田でも日本の炊飯器を手に乗るモンゴリアンもいた。初日のバスの中で五千円札1枚をモンゴル通貨トウグリグ(Tg、100Tg≒6円)83300Tgに換えたが、ビール中瓶3500～5千Tgでは使い切れないと土産物を物色していたら、現地ガイドトンガちゃんが1階のスーパーに馬乳酒があるという。1Lのミルク瓶が8千5百Tg(≒5百円)。念願の馬乳酒をようやくゲット。夕食に皆で飲むことにする。

次の伝統民族舞踊の鑑賞まで時間があるので、戦後シベリアからウランバートルに強制連行され、強制労働の末に死んだ日本人捕虜の慰霊の墓地に、トンガちゃんが連れて行ってくれる。強制連行された1万5千人中千2百人が厳しい環境での強制労働で亡くなった。ゲル集落の先、2、3頭の牛がのんびり草を食む草原の斜面に墓地はあった。こんな所で、着る物も食べる物もまともに与えられず、重労働に従事させられて！と、不戦の思いをあらたにする。貧富の差が激しくなっているというけど、モンゴルではホームレスが少ないね？1人しか見てないよ！と言うと、トンガちゃんは、暖房用の蒸気管が走るマンホールに沢山いるよ！と言う。そして、オユナを知ってる？と言う。モンゴル出身の歌手で、韓国、日本で女優、モデルとしても活躍、オユナ基金を作ってチャリティー活動をしていると言う。彼女のチャリティーコンサートを手伝った縁で、オユナ基金から日本に3ヶ月派遣され、三重県の員弁でホームステイし、日本語に磨きかけたと言う。四日市に住むメンバーがいて、ローカルな話題でバスは盛り上がる。行き帰りの道中ゲル集落を通るが、道端に黄色のビニール袋に入れた石炭と薪を積んで売っている。ビニール袋1杯の石炭が5千Tg(100Tg≒6円)だと言う。手押し車にポリタンを積んで水を運ぶ少年、少女も。

夕食は焼き肉バイキング、皿に好きな肉と野菜を入れて持って行くと、大釜の鉄板の上で器用に焼いて、返してくれる。最終日の今日は飲み物一杯を旅行会社がサービスしてくれる。生ビールを一杯飲んだ後、馬乳酒を皆で飲む。モンゴリアンにとっては、フランス人にとってのワインと同じ存在だが、アルコール度数は 2~3%と低く、酸味が強い、熟成していない、生なりのきついジュースの感じ。1L 瓶がなくなる。これが馬乳酒よ、美味しいと言うトンガちゃんに残りを持ち帰って貰う。名古屋の山本屋の味噌煮込みうどんを初めて食べて、なんだこれは！生煮えで硬い！粉っぽい！！とを感じるようなものかも知れない。テーブルの上に亀甲万の見慣れた醤油瓶。銚子の亀甲萬で技術者として働いていたと言う、83 歳の夫婦連れのお爺さん、匂いを嗅いで、舐めてみて、これはキッコウマンではない！と一喝。旅は好奇心です！と爺様元気。あやかりたいものだ！

⑦世界帝国モンゴル

4 日目は朝 5 時半過ぎにホテルを出て、空港へ。幸い窓際の席。夏には緑が美しいというが、空から見たこの季節の草原は、茶色の砂漠にしか見えない。乾いた茶色の大地にかるうじて生える草を食べるのでは、羊や牛も大変だ。丸い山の稜線が鋭く、高くなるにつれ、人家も道路も消える。日本の 4 倍の面積に、290 万の人間しか住まない訳だ。単調な景色が続き睡魔が襲う。眠りから覚めると眼下に広大な平原が広がる。短冊形の緑や茶色の畑が続き、丸い円を描くのは、スプリンクラーで灌漑しているのだろう。ここが中国、これがチンギス・ハーンのモンゴルをはじめ、古来諸族が、とりわけ女真や契丹、蒙古など、北の「蛮族」が、その支配を巡り覇を争った、中原か？

降水量の少ない内陸国家、遊牧国家モンゴルは、肉と乳、毛と皮以外、太陽と大地の恵みに欠け、それ以外の食糧と生活必需品はそれらと交換するか？略奪するしかない。つまり、生きるためには交易と戦いに長ける必要があり、そうであるが故に、チンギス・ハーンは世界を目指し、世界を制覇することができたのではないか？モンゴルの遊牧生活に必須で、そうであるが故に操縦に長けた馬という機動力は、遊牧という生産のためだけでなく、戦いのためにも有効だった。素早い情報伝達手段としての駅伝制度にも役立った。又、烽火台を一定間隔で作って、情報伝達手段を充実させたのは、戦いのみならず、交易を盛んにさせるのにも役立ただろう。モンゴルがユウラシア帝国、「世界」に唯一の帝国として成立することで、ユウラシア全域の自由で安全な交通が可能になり、ここに交易の道としてのシルクロードが成立する。

チンギス・ハーンは、征服した広大な領域をその土地の住民の自治と自由に任せて支配、生活、文化、宗教などには不干渉で、自由で公正な交易と低率の税金、ハーンへの服従しか要求しなかった。謂わば「楽市・楽座」である。広大な版図の統治は、帰順した異民族も平等に扱い、取り込むことで維持強化した、機動力ある軍隊の保持と迅速な情報収集による大量報復、皆殺しの恐怖によっても裏付けられていた。

広大な茶と緑の平原が、紺青の海原に変わり、やがて青々とした樹木豊かな陸地が見えると、瑞穂の国。山は濃い緑に被われ、山と山の間から湧き出た泉は川となり、水を満々と湛えた水田が等高線に開ける。水と緑の恵みに感謝。読了多謝(完)

◎「私の経営哲学」 北修爾 阪和興業(株) 代表取締役会長 (昭和 37 年入寮)

・・・東大三鷹クラブ第119回定例懇談会（大阪開催）のご案内

北修爾氏は、昭和41年経済学部を卒業して当時の通商産業省に入省し、通産官僚として順調に経歴を積み重ねてきたが、平成6年請われて父の創業した「阪和興業株式会社」に常務取締役として入社、半年後に社長に就任、現在は会長であると同時に京阪電気鉄道取締役でもある。当時「阪和興業」はバブル崩壊のあおりを受けて危機に直面していた。それを見事に建て直し、現在隆盛を誇っているのは彼の努力の賜物である。また彼は数々の公務にも就いており現在は、関西東大会会長をはじめ、日中経済協会理事、日本鉄鋼連盟理事、大阪商工会議所議員などもつとめている。

私と北氏が最初に出会ったのは、三鷹寮入寮の時であった。ただし、学部は彼が経済学部、僕が法学部であったので、駒場で出会うことはほとんど無く、もっぱら寮でのつき合いであった。彼はワングル部に所属しており、眉目秀麗、容姿端麗、よく通る声で、田舎者の私にとっては目映いばかりであった。しかし話してみると穏やかで人なつこく、エリートぶるところは全く無かった。社会人になって彼と再会したのは、彼が大阪通商産業局商工部長として赴任してからであった。それ以来彼には度々お世話になったが、いつも快く引き受けてくれた。彼のモットーは、「人生、意気に感ず」である。その彼が、「私の経営哲学」について語るという。これは是非聴かねばなるまい。三鷹クラブの皆様方にとりまして彼と素敵な時間を共有できるものと信じております。

(昭和36年入寮 宗 俊男 (神戸製鋼OB) 記)

日時：平成27年3月17日(火) 18時30分～21時(開場 18時)

場所：中央電気倶楽部本館214号室(大阪市北区堂島浜2-1-25 電話06-6345-6351(代))

会費：5000円(会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み、別途二次会)

申込先：平賀・干場 FAX03-5689-8192 TEL03-5689-8182

(有)ティエフネットワーク Email：tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎結びにかえて

建国記念日の2月11日(水)の休日、埼玉の小川カントリーで久しぶりにゴルフ。木曾の御岳山の麓で百草丸をメインに商う、寮で1年先輩の、日野製薬の井原社長が参加するので、二組8人の予定を一組増やし、噴火で苦勞している井原さんが長駆参加するからと、あらためて寮友に参加を呼び掛ける。寮で井原さんと同期の辰さん、佐久間さんの2人が追加参加で10人に。ランチもテーブルをくっつけ10人一緒、3組で楽しくプレー。

日航OBで、安全・危機管理の研究と評論をリタイア後の生業とする佐久間先輩と、事務所が主催する形で、佐久間先輩を講師に安全・危機管理の講演会を開催、佐久間先輩の経験と知見を広く生かせないか?など、話が弾む。

風もなく、陽光燦々、途中からトレーナーを1枚脱ぐゴルフ日和。前半8つ叩くホールがあるも、パー4のホールも2個制し46。スキーと同じで、人に習うことが不得手で、いつまで経っても上達しないにとっては好スコア。後半も9つ叩くホールがあるが、最後の2ホール、難しいロングパットをぴたりと読んで一発で沈め、思わずガッツポーズ。ボギーとパーで、50で上がり、久しぶり百を切る。再見!